



2019年8月29日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 メ ド レ ッ ク ス
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 松 村 米 浩
(コード番号：4586 東証マザーズ)
問 合 せ 先 経 営 管 理 部 長 藤 岡 健
(TEL. 03-3664-9665)

DDSカンファレンスにおける発表のお知らせ

2019年9月6日に開催される第28回DDSカンファレンスにおいて、当社と徳島大学が共同で実施した研究成果が発表されることになりましたのでお知らせいたします。

◇第28回DDSカンファレンス 開催概要

会期：2019年9月6日(金)

会場：グランシップ（静岡県コンベンションアーツセンター）11階 会議ホール・風

URL：<https://w3pharm.u-shizuoka-ken.ac.jp/ddsc/ddsc27/HOME.html>

◇当社と徳島大学との共同での発表演題

“Ionic liquids-based insulin transdermal formulation exhibits a better therapeutic effect for diabetes mellitus”

(イオン液体を用いた新規インスリン含有経皮吸収製剤は糖尿病治療薬になりうる)

【概要】

インスリンは1日数回自己皮下注射で投与される。しかしながら、皮下注射は痛みを伴いなおかつ手技が煩雑であるため、ノンコンプライアンスやQOLの低下が問題になっていた。経皮吸収は、安定した血中濃度が得られる、簡便で非侵襲的な投与が可能になるといった特徴を持つことから、これらの問題の解決策になると考えられる。我々は、インスリンを経皮送達させるイオン液体を用いた新規インスリン含有経皮吸収製剤を開発し、糖尿病モデルマウスにおいて持続的で強力な血糖降下作用を示した。また、経皮吸収の増大には、イオン液体と角質、イオン液体とインスリンの相互作用が重要であることが明らかになった。これらの知見から、イオン液体を用いた新規インスリン含有経皮吸収製剤は非侵襲的で有用な糖尿病治療薬になりうると思われる。

以 上